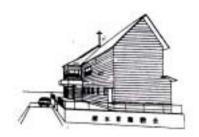
≪今朝の聖書から≫ "おおよそ、自分を高くする者 は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。"とい うのが今朝の御言葉です。集合写真などを撮るとき、真ん中に 座ってやろうと思って真ん中に座ったつもりが、いつの間に か、後ろに立っていた、などという光景をたまに見ます。この ような事を避けるために、座席に名前を書いておくなどという こともします。この"順番"というものは、昔からとても気にされたことでした。"婚宴"というのは人生の一大行事ですか というのは人生の一大行事ですか ら、更に慎重になったことの一つでした。そしてこの席順です が、招かれた人が決めることではなく、招く人の決めることな のです。旧約聖書の箴言には"尊い人の前で下にさげられるよ りは、「ここに上がれ」といわれるほうがましだ。(25:7) ともあります。"上座にどうぞ"と言われないのではなかろう かと、と心配しながら、下座に座るのも寂しい人の姿です。 かし、聖書はこのようなことをあたかも、救いの本質に関する こととして、この箇所にしるしているのではありません。その ことは"客に招かれた者たちが上座を選んでいる様子をごらん になって、彼らに一つの譬を語られた。(14:7)"から判る ように、惨めな人々の姿と、"正しい人々の復活の際には、あ なたは報いられるであろう (14:14)" から判るように、 救われる人々の姿について語られているのです。イエス様は、 目の前で展開される有様を用いて、救いの真理を解説してくだ さっているのです。主に比べれば、一人一人は、どの程度上座 に座する内容を持っているかということです。"私も大分、イ エス様のように出来るようになりました"といったら、ほとん どの人は"冗談"に受け取ってくれるでしょう。また順番は問 題にすべきではないのです。仮にあったとしても、それは主が 決められることです。今朝の箇所の後半に進みましょう。12 節以降です。日常的にも、祝いに招くことも、お礼をすること も私たちはよく知っていますから、この教えもよく分かりま す。どのような御礼があるかを問題にしていたのでは、祝いに 招いた意味がなくなってしまいます。古代ユダヤには喜びを共 にしなければならないことと、お礼をしてはいけないという戒 めがありました。取引になってしまうからです。14節に "そ のときあなたは、捧げる喜びを知る"ことが書かれています。 更にこのことは、最終最後の、復活の日にまで及ぶのです。審 判の座に、安心して臨む事の出来る人は、すべての人の復活の 中で、どんな人かを聖書は、示しているのです。

## 週報

2007年 9月 2日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。 使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校 毎日曜日 午前 9:00 礼拝式 毎日曜日 午前 10:30 (聖餐式 第一日曜日) 夕礼拝式 毎日曜日 午後 7:00 エステルの会 毎水曜日 午前 10:30 毎水曜日 午後 7:00 http://kusanagi.church.jp/

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26 **2054-345-4070** E-Mail grace@big.jp 牧師 村上定幸